

知的障害養護学校における遊びの指導に関する研究

岩瀬 茂樹

I 問題

昭和 40 年代後半以降, 知的障害養護学校には, 重度の知的障害があり, 自ら遊びに取り組むことが難しい児童が在学するようになるなかで, 遊びを指導として取り扱う試みが始められた。遊びの指導が生活単元学習との関連で初めて取り上げられたのは, 昭和 54 年 3 月に公示された学習指導要領の解説書である。遊びの指導は領域・教科を合わせた指導の形態として教育課程に位置づけられていることが多い。遊びの指導には, 各教科の内容をはじめ, 道徳, 特別活動及び養護・訓練の内容が, 総合された形で含まれている。したがって, 「遊びの指導を生活科の指導とか養護・訓練の指導とかいうように, 一教科あるいは一領域の指導として位置づけることは望ましいことではない。」(山下, 1996)。

清水 (1983) は「遊びの発達と教育的意義」の中で, 「遊び」について次のように定義している。①遊びは, 喜び, 楽しみ, おもしろさを求める活動である。②遊びは, 自由で自発的な活動である。③遊びは, その活動自体が目的である非実用的な活動である。④遊びは, 日常の現実経験に根ざしながら日常生活を離脱した活動である。ただ, この定義では, 楽しいことばかりしていればいいということではないし, 子どもの自由気ままにまかせておくものでもない」と述べている。伊藤 (2004) は, 「遊びは身体活動を活発にし, 仲間とのかかわりを促し, 意欲的な活動を育てていくもの」と述べ, さらに遊びの指導を行う上では, 1 段階, 教師や友達と同じ場所で遊ぶ。2 段階, 教師や友達と簡単なきまりのある遊びをする。3 段階, 友達とのかかわりを持ち, きまりを守って仲良く遊ぶ。という 3 つの段階が重要であるとしている。

「遊びの指導」は, 「課題遊び」と「自由遊び」

の 2 つの遊びに分けて, 実践が行われていることがある。伊勢田 (1999) は, 遊び「を」指導するのは「自由遊び」と呼び, 遊び「で (を通して)」指導するのは「課題遊び」と呼び, 両者を明確に区別する必要がある, 「自由遊び」では仲間関係を意識した組織的な集団遊びのような指導は展開しにくいと述べている。野田 (2003) は, 知的養護学校の児童を対象に遊びの指導を実施した。題材「ミニカー遊びをしよう」で, ①ミニカー遊びに出会う。②友達に関わりながら自由に遊ぶ。の 2 つが「自由遊び」で, ③ミニカーをミニカー道路の端から端まで走らせる。④ミニカーを走らせながらいろいろな種類の道路にかかわる。の 2 つを「課題遊び」とした。指導の結果, お気に入りの活動に取り組んだり, 必要に応じて指導者の援助を受け入れたりして, 活動の幅を拡げたり高めたりすることができた。また, 「ミニカー遊び」に取り組もうとする意欲や態度を一層高め, 自発的な遊びの活動を生み出し, 子どもたちなりの遊びの活動の姿を引き出すことができた」と報告している。

II 目的

養護学校における遊びの指導では, どのような工夫をしながら指導を行い, 評価を行っているか, その実態を明らかにすることを目的とする。

III 方法

1. 研究 I

1) 目的

遊びの指導においてどういった指導が行われ, どのように評価を行っているかを明らかにする。

2) 方法

新潟県の知的障害養護学校が過去 10 年間に刊行した研究収録 5 冊及び, 銃悦教育大学図書館雑誌記事索引データベースにおいて, 養護学校にお

ける遊びの指導の事例をキーワードに検索し、過去10年間に発表された遊びの指導に関する実践論文のうち、実践内容が詳しく記述されていた9編を収集し、指導上の工夫、評価の方法についてまとめた。

2. 研究Ⅱ

1) 目的

- ①遊びの指導の授業時数について明らかにする。
- ②遊びの指導での実態把握の方法について明らかにする。
- ③目標設定の方法について明らかにする。
- ④自由遊びと課題遊びについて明らかにする。
- ⑤工夫について明らかにする。
- ⑥評価について明らかにする。

2) 方法

(1) 対象

平成18年度の遊びの指導の担当者または生活単元学習など関連のある担当者。また、遊びの指導の主任や遊びを主にしている方がいない場合は、遊びの指導をまとめている指導者。新潟県知的養護学校14校のうち、10校からの回答が得られ、28名中17名で、回収率は60.7%あった。

(2) 調査方法

アンケート調査・郵送にて依頼・収集を行う

(3) 調査項目

予備調査の結果から暫定項目を修正し、質問項目を作成した。

①時数

週に何校時遊びの授業が行われているか。また、遊びの授業が一日中行われている日が年に一度以上あるか。

②遊び授業での実態把握の方法

各学校が行われている実態把握の方法として、もっとも活用している項目は何か。

③目標

個人の遊びの授業の目標はどのように設定しているか。また、目標は指導者の間でどのように共有しているか。

④内容

遊びの内容について各学校では、どのような流

れで遊びの授業を行っているか。また、遊びの指導内容はどのように決めているか。

⑤工夫

遊びの授業の際に各学校ではどういった工夫が一番にこころがけているか。また、その中で子どもにとってなぜ一番有効だったのか。

⑥評価

個人評価として、遊びの指導をしたことによって、どういった姿が子どもに見られたか。また、全体を通して遊びの授業をどう評価しているか。

⑦その他

遊びの指導について、今後の改善点として今、考えていること。また、実際に子どもが遊びの授業を経験して、どういった成果が現れたか。

IV 結果

研究Ⅰからは、遊びの指導の中で子どもたちが、人や物と係わり合い、設定された遊びの場でルールやきまりを守り、譲り合いなどが生まれたりしたことが明らかになった。そのことから、遊びの指導での時間を通して、学習の場での成長を育てたいという指導者の強い気持ちがあることが明らかになった。

研究Ⅱでは、遊びの指導について、「役割」「方法」「工夫」「評価の仕方」「問題点」という5つの視点からまとめた。遊びの指導では、授業の進め方、子どもの自発的な行動を引き出すには、どういった場面に視点を置くか、遊びの発達段階を見極めてどう進めていくかの2つに重点を置いていることが明らかになった。「実態把握」をしっかりと行った上でのことだが、個々の目的を達成させるには、指導者が子どもにどうなって欲しいか、どんな力をつけさせたいかという考えを明確に持つことが重要な鍵となることが明らかになった。

指導上の工夫については、教材・教具の工夫、子ども同士で関わるための工夫、内容の工夫が行われていた。指導上の工夫を行った結果、興味・関心をもって活動に取り組むことができたり、子供同士が関わる場面が遊びの時間以外でも増えたと成果を述べた回答があった。

工夫と評価についての結果は下記の通りである。

表1 遊びの授業の際に最も重視している工夫

工夫内容	人数
①場所の工夫	0
②教具, 教材の工夫	8
③指導者同士の連携の工夫	0
④子ども同士関わるための工夫	3
⑤時間の工夫	0
⑥内容の工夫	4
⑦その他	2
その他の内容	
子どもの実態性をいかした支援の工夫。	1
どれか一つには絞れない。どれも重要。	1

遊びの授業の際に各学校で一番こころがけている工夫は、教具・教材の工夫、という回答が最も多かった(表1)。

遊びの指導をしたことによって、①みんなと同じ場所にいられるようになった②遊びに集中できるようになった③遊びの幅が広がった、の3つが一番成果として多く示されていた(表2)。

V 考察

遊びには遊びの経験の蓄積が必要であり、幾つかの段階を経て自発的なものへ移行するものだと考えられる。

遊びの指導においては、指導者が子どもに経験をもたせるための指導の工夫をできることが指導者にとって重要と考えられる。

遊びの指導に求められているのは指導者の工夫であり、子どもたちが遊びに対して、どういう反応を表したかという結果を適切に評価することであると考える。

VI 今後の課題

本研究では、具体的にどのような個人目標を立てて指導を行い、どのような基準で評価をしているかまでは明らかにできなかったことから、今後はこの点についてより詳細に明らかにすることが課題である。

表2 遊びの指導による成果

成果	回答数(複数回答)
①人と関われるようになった	8
②みんなと同じ場所にいられるようになった	11
③遊びに集中できるようになった	11
④遊びの時間を時間いっぱい使えるようになった	6
⑤遊びの幅が広がった	11
⑥その他	0

文献

- 伊勢田亮(1999) (新訂) 教育課程をつくる. 障害児教育実践入門, 日本文化科学社.
- 伊藤良子・高橋範子(2004) 養護学校における遊びの指導. 特殊教育研究施設(研究報告), 3, 25-32.
- 加藤直樹(1990) 子どもの遊びと発達. みんなのねがい, 260, 28-33.
- 北島善男(2003) 障害児教育における遊びの指導. 障害者問題研究, 31, 81-86.
- 西村章次(1993) 障害児の保育. 教育と遊びの実践障害者問題研究, 72, 4-22.
- 野田和裕(2003) 養護学校における重度知的障害児のための「遊びの指導」の実践. 一題材「ミニカー遊びをしよう」での自発的な活動を引き出す工夫. 福岡教育大学障害児治療センター年報, 16, 17-24.
- 清水美智子(1983) 遊びの発達と教育的意義. 三宅和夫・村井潤一・高橋恵子編, 児童心理学ハンドブック, 金子書房, 495-519.
- 土岐邦彦(2004) 「遊びの指導」に関する実践的・理論的課題. 障害者問題研究, 31, 80-86.
- 八木英二(1993) 障害児の学校教育課程編成と遊び. 障害者問題研究, 72, 44-52.
- 山下皓三(1996) 遊びの指導と教育課程. 肢体不自由教育, 4-16.